

第 42 回 三条市小中一貫教育推進委員会 会議録

1 開会宣言 令和 6 年 11 月 14 日（金） 午前 10 時 00 分

2 場 所 三条市役所栄庁舎大会議室

3 出席状況

(1) 出席委員 雲尾 周 委員長、高橋 喜一郎 副委員長
渡邊 伸明 委員、小湊 雄一 委員、田村 和弘 委員、
小林 要 委員、小澤 邦夫 委員、高綱 誠 委員、
高橋 雅博 委員（代理 吉田 勇一）、
金子 純一 委員（代理 倉田 孝英）、
住吉 英明 委員、鮮良 靖宏 委員、
中村 正之 委員（代理 小熊 哲也）、
野口 典弘 委員、目黒 聡 委員、
長谷川 洋志 委員、藤田 芙美 委員（17 人）

(2) 欠席委員 浅間 正直 委員、新飯田 正 委員（2 人）

(3) 事務局職員

教育長 高橋 誠一郎

教育部長 平岡 義規

教育総務課長 野水 裕晃

子育て支援課長 小林 正芳

学校教育課長 相田 覚

教育センター長 森田 雅弘

統括指導主事 畑 宏幸、指導主事 武石 和仁、
指導主事 高橋 将也、特別指導主事 浅井 弘行、
特別指導主事 和田 薫

4 教育委員 松井 啓子 委員

5 会議次第

(1) 開会

(2) 開会のあいさつ

(3) 報告

(4) 各学園の取組紹介

- (5) その他
- (6) 閉会のあいさつ
- (7) 閉会

6 会議の経過及び結果

- (1) 開会
- (2) 開会のあいさつ
(雲尾委員長)

一週間前に中国から帰国しました。教職大学院生と学部生と中国の学校を訪問して参りました。今回は中学1年、いわゆる7年生の子どもたちが、自分たちの総合を聞いてほしいということで、総合学習の発表をしてくれました。中国の広東省で伝統的なハーブティーを自分たちでもっと特産化したいということで、いろいろな調合を試してみて、一番の自分たちのおすすめのブレンドを考えたので、これについてどうやったら日本でも売れるかを教えてほしいというような発表をしてくれました。幼稚園、小・中学校という一体校の中で育っている子どもたちの力をしっかりと見せてもらう機会となりました。

三条市の小中一貫教育でも、子どもたちが力をつけているところをいろいろなところで見せてもらえるととても嬉しく思います。また、三条市全体がうまくいっていることを内外に示せることになるかと思いますので、是非ともそのような発表の場面を進めていっていただきたいと思います。

それに合わせまして、今日もそのための活発な御審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

- (3) 報告

(事務局 畑)

出席者数の確認 出席者 19 人の委員の内、17 人の委員の出席で、規定により半数以上の出席がありますので、本会議は成立しました。

(事務局 畑)

第 41 回 小中一貫教育推進委員会検討内容概略について

(資料No.1、別紙)

(雲尾委員長)

ただいまの報告につきまして御質問御意見がありましたらお願いします。

[質疑なし]

- (4) 各学園の取組紹介

- ・各学園の小中一貫教育推進リーダーから学園の取組をプレゼンテーションで紹介
- [意見・質問]

(小湊委員)

ありがとうございました。多様な取組をお聞かせいただき学ばせていただきました。その上で4点感じたことがございますのでお話をさせていただきます。

まず1点目ですが、小学生と中学生の交流が促進されているというところに大きな価値があると聞いていて感じました。交流して終わりではもったいないというふうに聞いていて感じまして、交流して感じたこと、学んだことを小学生、中学生がそれぞれ自らの生活に反映させていくところにこの取組の価値があるというふうに思って聞いていました。その意味で、三条学園のスライドの中に小学6年生の中学校体験の感想が載っていましたが、その感想の中に、中学生への憧れという感想があったと思うんですけども、それがその後の小学校の子どもたちの生活の中にどう繋がっていったかっていうところまで追いかけていけると、取組の価値が一層強まるのかなというふうに思いました。

2点目です。先回の会議の中で「負担感の軽減」も一つの課題だというふうにおっしゃっていました。今回その取組の結果が示されていて、先生方の御尽力が大変伝わってきましたが、推察するに各学園の先生方がかなり連携協働していく中で難しさを感じられたこともあったんじゃないかというふうに拝察しております。その難しさとか分からなさなど、また、実践してみても見えてきたことをこの場でお示ししていただくことも価値があるんじゃないかなというふうに感じました。その意味で、四つ葉学園のお話の中で「小学生の主体性がもっと発揮されるといいな」という話であったりとか、大崎学園の「まとめの共通理解がちょっと難しいんです」という話とか、そういったことをお伺いできると協議の深まりが出てくるのかなというふうに聞いておりました。

3点目です。低学年における不登校児童の増加というのが全国的にも県としてもかなり問題になってきています。原因は様々あるかと思いますが、この問題について一ノ木戸ポプラ学園で低学年の朝顔リース作りの取組が紹介されていましたが、小中連携が小学校低学年にも視野を広げているというところは不登校児童の増加の問題に対する一つの解決の糸口になるのではないかなと思います、価値ある取組だというふうに聞いていました。

最後に4点目です。学級づくりについての話をされていた学園もありました。授業づくりだけでなく、学級づくりにも目を向けられていることを大変価値があるというふうに思います。瑞穂学園の取組の中で、高橋知己先生をお招きした学級集団づくりに関わる研修があったと思いますが、子どもと子どもの関係をどう作っていけばよいのかということは、おそらく全学園の先生方、特に若手の先生方中心に日々の悩みの一つなんじゃないかと思います。簡単にはなかなか学級づくりは進まないと思うのですが、春からどのように学級をつくっていくか、その道筋がもし分かれば、悩ん

でいる若手の先生方も救えるというふうに聞いていて感じました。附属長岡校園としても、子どもたちのクラス会議であったり、子どもたちがサークルで会議をする「サークルトーク」といった新たな取組についても進めているところがございますので、もし三条市の若手の先生方を中心に一緒に考え、悩んでいけたらというふうに思っています。

(田村委員)

発表に絡んでのことですが、今後必要かなというふうに思い述べさせていただきます。どの学園でも「郷土愛」を重点にされており、活動等もされていると思いました。当学園でも行っているのですが、実際に「郷土愛」を「シビックプライド」という尺度（全18項目）で、中学1年生が総合で地域学習をやっている関係で、昨年度、中学1年生で取りました。「郷土への貢献」という部分でちょっと落ちているということで、今年度、自分たちが地域に関与というところで、三条にどのように課題があって、自分たちにこういう課題があるんじゃないかということで今年度提言しようということでやっています。もう一つ、去年取った尺度の中で1項目、「郷土愛」については、もう振り切るぐらい統計的に高い数字が出ているのですが、先行研究である富山県と比較して、富山県は18歳から68歳まででちょっと年代が違いますが、「ずっと住み続けたいか」というその項目だけ統計的に優位に低いという数字が出ました。それは大人と子どもの違いで、富山の例ですので、既に富山にずっと住んでいるのでこれから転居などは、なかなか難しいような年代なのかも知れません。本校は中1ですが、「ずっと住み続けたい」という項目が低かったので、「持続可能」という視点からの「郷土愛」であるとか、三条市もキャリア教育を推進していますが、キャリア教育は職業人という視点だけではなく、やはり「地域人」として生きるということも大事なキャリア教育というふうに考えているので、本校としては来年度辺りからもう少し力を入れていこうというふうに考えております。三条市全体としても「持続可能」という視点で郷土を考えるということも必要なかなというふうに思った次第であります。一つの意見ということで述べさせていただきました。

(渡邊委員)

子どもたちが本当に楽しそうに活躍されている姿が様々出ていて、本当に子どもたちと関わっていていいなあとしみじみ感じました。羨ましい限りです。

その中で思ったことです。立場としてお話させていただく中で、前回もお話させていただいたと思いますが、やはり先ほどの中にもあった「負担感の軽減」の部分というのが大事なところかなと思っています。組合として、成年部若手の方々にアンケートを取っている中で、離職を考える理由の一つでかなりの数上がってきているものが、やはり超過勤務の部分です。超過勤務を管理職の皆さんも大変意識されてるかと思いますが、特に新採用の方の超過勤務、何でこんな時間まで仕事をしてるんだろうとい

うところをすごく感じるという声がたくさん上がってきています。実際、子どもたちの笑顔や学んでいる姿を見ればやりがいとしてはすごく感じるものが出てくると思いますが、そこに至るまでの部分で、先ほど大崎学園からもありましたが、スクラップが進まないのだというところがありましたので、ぜひそういった視点と子どもたちの輝くそのすばらしい教育の姿を気にかけていただいて考えていただければと思います。よろしくお願いします。

(5) その他

(目黒委員)

いろいろ学校のやり方を教えていただき大変喜んでおります。皆様方の努力で子どもたちはよい子になっていると信じています。挨拶も、皆さんよく取り組んでくださってるおかげだと思いますが、たまに会うとよくしてくれるので非常に嬉しく思っております。皆さんの努力のお陰と本当に感謝しております。

(長谷川委員)

森町地区の代表長谷川洋志と言います。第1回目の会議を欠席させていただいて今回初めてです。よろしくお願いします。発表を聞かせていただいて、各学園・各校が共通の取組やそれぞれの学校の特色に応じた取組をされていることに大変感銘を受けました。その中で、先ほどお話が出ましたけれども、三条市でも不登校の子が増加しているというお話を小中一貫教育のたより等で拝見したりして、当時、中1ギャップの解消ということで、この小中一貫教育が大変成果を上げているというお話でしたが、また増加というようなことでちょっと心配しているところがあります。いろいろな子どもたちを取り巻く家庭や環境が変わってきて、保護者の問題もあったり、人間関係のこともあったりといろいろあるとは思いますが。やはり子どもの居場所づくりとか安心して通学できる環境づくりというのがやはり基本じゃないかと思うので、不登校の実態に応じて、何かてこ入れをするような方策があればと思います。若手の先生方の研修等いろいろあると思うのですが。そこを一つ考えていただけたらかなというのが一つと、下田地区はもう複式学級が増えています。そうすると、職員・先生方の数も減って、仕事量は同じなので、先生方の数が減るということは1人に対して何教科も教科主任をしなければいけないとか、分掌の主任をしなければいけないとか、いろいろ大変だという話を聞いています。先生方の負担の話も先ほどありましたけれども、先生方もそういう状況に置かれているということで、組織的な取組がなかなかできない学校もあるんじゃないかという心配がありますので、そこも含めて今後一層小中一貫教育が推進されることをお祈りしています。

(藤田委員)

今日の各学園の取組について、私の子は、三条おおじま学園と三条嵐南学園に学区

外で通わせていただいておりますが、この説明の中で、他の学園のお話もあって、もう全てが一緒じゃないとわかりました。実際、保護者として子どもたちの学校でのことは見えないので何とも言えないのですが、子どもたちが楽しく、これからも下の学年、上の学年が仲良く交流できるという場がこれからもずっと続いてくれるといいなと思いました。

(松井教育委員)

各学園とも先生方が本当に御尽力なさって、子どもたちに真摯に向き合ってる姿勢、対策とか実施内容は素晴らしいなと思って聞かせていただいております。1点、実施している施策は確かに大切ですが、先ほど附属小の先生も言われてましたけれど、その後の結果やアンケートを取ってその後どうなったかなど、その後のことをもう少し盛り込んだ報告があっていいのかなと思います。この小中一貫教育推進委員会も大分回数も重ねてきましたので、そのような報告がもうちょっと増えた方が、聞いている方としては、こういう実績でこういうことをやったらこういう方に子どもたちが向いていくんだとか、そういうことをもうちょっと知りたいなと思いました。

もう一つは先生方の負担軽減です。これだけのことをやっているのに、本当に子どもたちとも触れ合って、目を見て教育してほしいと思いますが、事務仕事が増えることも確かです。この報告をまとめるのも、本当に大変だと思います。先生の負担が少しでも減って子どもたちと実際に関われる時間を大切にして進んでほしいと思います。

(6) 閉会の挨拶

(高橋副委員長)

お疲れ様でございました。各学園の取組をプレゼンテーションで発表いただきました。そして委員の皆様からの御意見をいただきました。ありがとうございました。それぞれ小中一貫教育に関わって大変有意義な話を出していただきましたので、子どもたち、小学生にとってのよさ、中学生にとってのよさも感じる事ができたというふうに思っています。また、コミュニティ・スクールとしての取組についても、取り組んでみたいということも出たのかなというふうに思います。自校に生かす、自分の学園に生かすヒントがたくさん出ましたので、生かしていきたいというふうに思っております。

今日、始めに、雲尾委員長から中国での幼小中一体校の話の中で素敵な姿の話がありました。三条市の小中一貫教育でもこんなよい姿が出てるという話があるとよいという話がございました。本当にそうだなと思っていて、やはり、取り組んでいる私たちが、とてもいいなあ、子どもたちがこんな姿になるんだなあという感じがして進めていけるところが大事なんだろうというふうに思っています。私の学園では、取り組んで子どもたちがやりがいをもてるように、本気で取り組めるように、もう1回グランドデザインの見直しから始めてみようかと考えています。目指す子どもの姿を

より明確にして絞り込んで、そこに向けた時にどんなふうなカリキュラムになるんだろうかということをもう1回考えていくことで、みんながやりがいをもって取り組めるのではないかと今考えてるところであります。今日、本当に様々なヒントをいただきましたので、ぜひ三条全体で、学園で生かしながら進んでいければと思っております。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(武石主事)

委員長並びに各委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。長時間にわたりまして御参加いただきました。御礼申し上げます。ありがとうございました。次回は2月頃を予定しております。日時は決まり次第、また詳細の方を御連絡申し上げます。第1回目の会でも申し上げましたけれども、委員の皆様の任期は2年ということになっております。つきましては、今年の12月で一度切れますが、1月以降も引き続きお願いしたいと考えております。

以上をもちまして、第42回三条市小中一貫教育推進委員会を終了いたします。

(閉会 午前11時40分)